

# 感染症対策沖縄会議

12月7日～8日 / 沖縄コンベンションセンター



結核予防会顧問・  
エイズ予防財団理事長  
島尾忠男

## なんのために開かれたか

世界のトップリーダーが集まって年に1回協議するG8サミットで、感染症の問題が取り上げられたことはあったが、今年7月に沖縄で開かれたサミットでは、エイズ、結核とマラリアについては2010年までの目標（本誌275号6頁参照）を掲げ、G8各国が協力することを約束した。これを言い放しに終わらせないために、外務省と厚生省は協力し、今後の具体的な行動計画と各国の拠出額まで合意するために、感染症対策沖縄会議を12月7、8日の両日沖縄で開催した。参加者はG8各国代表のほかに、途上国を代表してザンビア、インドネシア、ケニア、タイ、ブラジルなど10カ国、国連エイズ計画、WHOなどの国際機関、国境なき医師団など内外のNGO、製薬団体代表など130名ほどであった。

## 具体的な成果

目標達成のために、各疾病別に作られた今後の行動計画（結核の場合には2005年までにDOTS対策を行っている人口を70%まで増やし、発見した塗抹陽性の肺結核患者の85%を治癒するようにし、これを5年間維持する）を承認し、そのために各国政府と国際機関、NGO、製薬会社などが新しいパートナーシップの下に、研究開発、資金援助、途上国援助などで協力することに合意した。日本は2005年までに30億ドルを拠出し、米国は明年度予算で感染症対策と子供の生存のために従来の倍近い12億ドルを計上する予定。その他の国も支援の強化を約束した。今後の進め方については、今年の議長国である日本がここまで進めたので、

これから先は来年の議長国であるイタリアが引き継ぐことへの期待が表明され、イタリア側も受け継ぐ決意を表明した。

## 今回の会議の特色

外務省の国際社会協力部と厚生省の国際課は密接な協力の下に、合意成立のために周到な準備を行った。その努力が、大きな反対もなく議長の要約が受け入れられた背景にあることを忘れてはならない。疾病ごとの議論のほかに、従来日本人が苦手であった総論的な議論にも参加できる日本人が増えてきたことは喜ばしい。国境なき医師団は、感染症対策に用いられる薬剤の価格の高いことを繰り返し指摘し、特別な措置を取ることを求めた。一方で製薬会社側は、知的所有権の尊重なしには開発に積極的でなくなる。この難問を解決するためには、早急に国連主導で会議を開催することが望まれる。

## 【本部関連行事】

- ・1/19 情報化シンポジウム（日本青年館）
- ・1/25～26 第41回結核予防会医師研修会（後楽園会館）40名参加
- ・2/5 第52回結核予防全国大会第2回運営委員会（阿波観光ホテル）
- ・2/6 第5回協業化・情報処理ワーキンググループ 協業化・情報処理委員会（本部会議室）
- ・2/7～9 第5回結核予防関係婦人団体中央講習会（メルパルク東京）120名参加
- ・2/20～22 第2回結核予防会胸部X線写真読影医師研修会（結研）
- ・2/27 平成12年度第2回事業連絡協議会・支部事務連絡会議（後楽園会館）
- ・2/28 第8回在日外国人結核問題に関するワークショップ（結研）